

金澤北ロータリークラブ



写真：関 稔(会員)

■金沢 ■北郊 ■散策

東山菅原神社

東山1丁目

子来坂下の東茶屋街の角にある鎮守社である。当時茶屋街公認に力があつた年寄ご用番、村井豊後守、及び町奉行山崎頼母にちなんで村山大明神と神号を付け崇神したと伝えられる。天満宮の額に元治元年(1864)が見える。現在の社は明治12年建立、学業、習い事の神「菅原道真」商売繁盛の神「稻荷大明神」が祀ってある。

サッチャー女史と金沢

(株)北國新聞社政治部次長 岡田直樹



最近、サッチャー女史とか、スウェーデン国王夫妻とか、外来のお客様が、金沢に沢山お見えになる様になりました。私も今年1月石川県に漂着したロシアタンカー重油事故の関係で、スウェーデン、フィンランドと2ヶ国取材してまいりました。どうして日本海重油事故と関係があるのかと不思議がられるかも知れませんが、この北欧のバルト海と云う海は四方陸地に囲まれています。日本海と似た所が多く、又ロシアと面していて非常に汚れやすいと云う特質を持っています。外から水が流れて来ない所へ工場の廃油廃水が流れてきますので、海洋汚染が問題になります。私はバルト海の水をなめてみたのですが、まるで塩の味のしない湖の様でした。「サッチャー女史と金沢」と云うタイトルをつけましたが、かならずしもこの内容のお話になるとは限りませんが、金沢の国際化と云う事でお話しを少し申し上げたいと思います。北國新聞も8月5日で創刊104年目になります、明治26年といいますと、日清戦争の前の年になります。その後の日露戦争最中に金沢の人にとって、カルチャーショックといいますか外国とのふれ合があったと思います。それは満州での捕虜が金沢で生活をする事になったのです。ロシアと云う赤毛の大男が大軍を組んで歩くわけですから、市民はビックリ、ギョウテンしたのではないかと思います。最近では平和で豊かな時代であります。地域の国際化と云う事がさげばれておりまして、新聞社でも色々な人達をお招きして、金沢を観てもらおうとして、又金沢の人達にも世界の著名な方々のお話しを聞いてもらおうと云うところみをやっております。サッチャーさんは4度目です。米国のペーカ氏、英国下院議員のジェフリーアーチャー氏、I O Cサマランチ氏、アトランタのマイケル・ジョンソン氏、又スウェーデン国王夫妻カール16世、シルビア王妃と以前では金沢で、顔をみたい、話しを聞きたいとするのが難しい様な人達が金沢へ来てくれるのは大変結構な事だと思っています。最初サッチャーさんを迎えた時は緊張しました。なにしろ世界で知られた「鉄の女」といわれた人でしたから、斜陽といわれた英国を在任中に立てなおし、フォークランド問題では武力に訴えてでも英国の地位を守り抜いたと言われる女史であります。英国病と笑っていましたがけれど日本も同じ様です。日本の政治家にサッチャーの様に行政改革をやるという様な腹のすわった人がいるのが疑問に思われます。サッチャーから学ぶ事が多いのじゃないかと思われます。又小さな香港が大きな中国にのみ込まれてしまう訳でなく、むしろ香港が中国を豊かにし、自由にし、のみ込んでしまうのだと語ったことが印象的でした。毎年、ジャパンテントが開催されますが、将来アジアを背負って立つ様な若者に金沢を知ってもらおう事も大切な事と思います。国際化と云うのはすぐ経済的にも見返りがある様な事ではなく、地道で長い問題だと思っています。

(文責 畔柳 信一)



民謡について

中田 秀雄

私が民謡会に入会したのは昭和50年頃だと思います。仕事から（建築大工）芸無しではどうしようもないので、近所の方と公民館に行ったのが始まりでした。

週に一度、公民館に行き勉強をするのですが教室では、10年生も1年生も一緒に1曲の唄を先生の唄に合わせて後を追いつながら習います。丁度3年生でしたか、係の人から発表会に出演してみないかといわれ、出る事にしましたが、これが大変なのです。まず着物を作り帯を買い一式揃える事にしましたが、紋付もといわれこまりました。紋付きは石川県七尾地方に伝わる民謡で“七尾まだら”を合唱する時に着るのです。私は父の紋付、袴で出る事にしました。

11月の初舞台は“ひえつき節”と“最上川舟唄”なんとか唄えたかと思います。

昭和60年2月、先生から北海道に行かないかと云われ「何ですか」と聞くと、江差追分のセミナーが江差町であるので一緒に参加しようと誘われ、参加する事にしました。仕事も冬場なのでさほど忙しくないで、行く事にしました。

セミナーは木、金、土の3日間、たしか2月の第四の木、金、土、だったと思います。金沢を出発したのは火曜日の夜9時30分、青森着が昼ごろ、それから連絡船で函館まで4時間、函館から江差町まで2時間、旅館に着いたのが夜の9時頃だったと思います。次の日の8時30分から入校式なので7時に朝食をすませ7時半には宿を出ました。外は吹雪です。2月の北海道の寒さはひとしおです。追分会館までは歩いて、15分～20分、会館は海岸辺りにあり、一段と寒さがきびしく凍りつく様でした。

講習は午前9時から午後3時までを3日間過ごしました。追分節は、世界に137支部（アメリカ、ブラジルを含む）本部会10支部で会長は江差町長で成り立っています。私達は石川県中央支部として、91番目に登録されています。現在は青函トンネルが通り、又、富山からは函館便が有り便利になりました。

私は“加賀民謡会”と“江差追分石川県中央支部”に所属し、加賀民謡会では企画部長、追分会では総務部長と忙しい時を過ごしています。

加賀民謡会“第30会記念大会”が10月12日観光会館で行われます。

